山と花のたより 171号

２０１３年１０月２５日　松尾忠
メールアドレス　tadashi6414@smile.ocn.ne.jp
http://yama-to-hana-no-tayori.sakuraweb.com

友の会山歩きクラブで稲村ケ岳に

９月１８日、台風の合間を狙ったような好天。総勢２３名。最高齢者８１歳女性。平均年齢は60歳代後半か？

千石橋で吉野川を渡り、下市町→黒滝村→天川村洞川（どろがわ）を抜けて、8：２４登山口の母子堂に到着。ハガクレツリフネ、ゲンノショウコ（ピンク）が出迎えてくれる。体をほぐして８：４０登山開始、ギンバイソウはすでに花期を終えていたがミカエリソウ、アキチョウジ、ツルニンジン、イヌショウマなどが花を見せてくれる。

９：４４法力峠着。ここまで一時間で登ってきたのだ。之には内心舌を巻いた。23人もの高齢者たちがおしゃべりしながら、花をたのしみながら、登山地図の「コースタイム」で歩いたのだ。そして法力峠から稲村小屋までの登りも1時間20分のコースタイムぴったりで歩いたのである。

イヌショウマ→

←ハガクレツリフネ

私は改めて仲間たちの顔を見回した。初秋のやわらかな日差しの中で、昼食をとりつつ談笑している仲間たちの生気にみちた顔と姿。今日の登山の目的は大方達成されたのだ。一緒に登ってきて良かった。

このクラブの例会登山はほぼ月一回。この月一の登山のために毎日二上山に登る人、ウォーキングを続ける人など様々だが、努力は確実に実を結んでいる。

昼食後１７２５ｍの稲村ケ岳山頂に向かう。仲間達と励ましあい、助け合っての高峰への挑戦。崖にはリンドウ、シラヒゲソウ、アキノキリンソウなどが咲いている。

リンドウ→

山頂には誰一人遅れることなく、全員が登った。この間はコースタイムよりはるかに早かった。たいしたものだ。さらに驚いたのは

あの尖塔とも言うべき大日山頂上に全員がたったのだ。よく知られているように、崖を梯子と鎖にすがって攀じ登る所なのだ。木が生い茂っているとは言え、なかなか勇気の要るところだが、そこを高齢者たちは軽くクリアーしたのである。

ミカエリソウ→
（シソ科テンニンソウ属）

←シラヒゲソウ
（ユキノシタ科ウメバチソウ属）

近世社会の発展と大和百姓の姿　　歴史講座１６回目

１０月６日　健生会友の会主催の「地域の歴史をまなぶ」連続講座の第１６回目が健生荘にて行われた。受講生は３９人。ここにも高齢者の皆さんの意欲に満ちた姿があった。

この日の演題は**近世史－２「『川ばたの九助』の話とその時代」**で講師は天理大学教授の谷山正道先生。

谷山先生は江戸前期の浮世絵草子作家・井原西鶴の「日本永代蔵」に登場する大和の百姓・九助の話を引き合いに、当時の日本社会での農業、産業の発展とそれを支えた農民・民衆の生き生きした活躍ぶりなどを紹介、大和の木綿の栽培とその販売網の全国的展開など、奈良県の地名や河川名などを挙げつつ、大和の民衆が果たした先進的役割などを明らかにしました。

シラネセンキュウ（セリ科シシウド属）↑

受講者からは「大変わかり易く、史料の読み合わせも丁寧に説明いただき、興味深く拝聴させて頂きました。わけても今井町在住の身で、先祖が大和木綿の卸問屋を営んで居たので、色々と知り

たく、今後が楽しみです」とか「大和の国が（中略）米作りの農機具の発展、商業的農業、綿生産が盛んで全国的にも大事な役割を担っていたことがよく分かりました。また物資輸送に大和川が大いに利用されていたことも驚きでした」などの感想が寄せられました。

↓ツルニンジン（ジイソブ）キキョウ科ツルニンジン属

次回の歴史講座

近世史－③　「近世の旅と大和」

２０１３年１１月１０日（日）午後２時～４時半

会場は大和高田市の健生荘・多目的室

講師は引き続き　谷山正道　天理大学教授

お問い合わせは健生会友の会へ

（０７４５－２２－２９８９）